



繪本  
豐臣勲功記

八編  
三

へ遠13  
2209  
73





遠 13 特  
2209  
73

繪本豊臣勲切記八編卷之三

目録

羽柴殿制池田勅謀不成 属 惑発困道

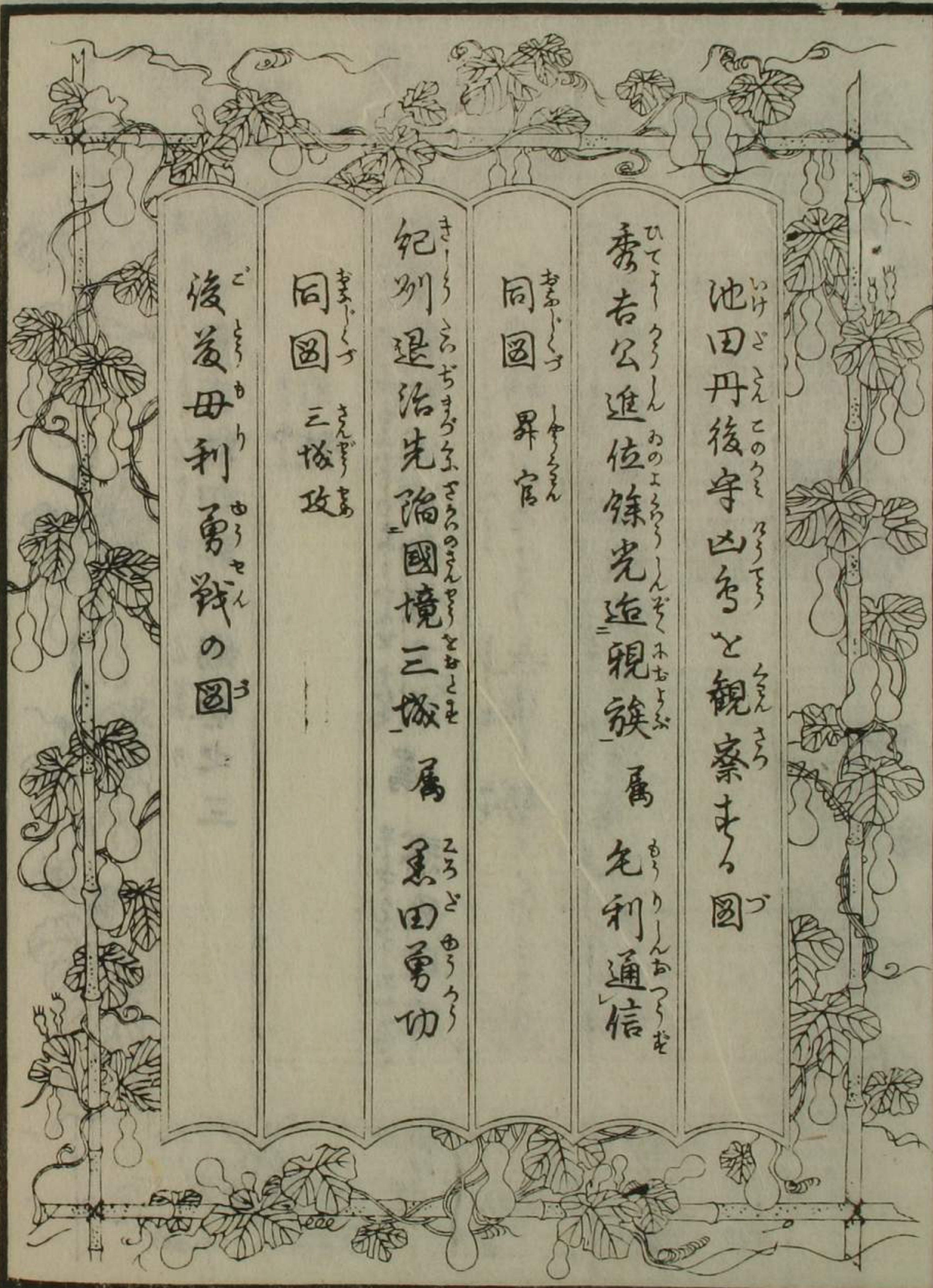
池田勝八采入より 長嶋を越えんとする図

池田勢臨岩崎坂視鳥山北 属 大志調和

池田用道不却く図

豊臣八編





池田丹後守凶考と觀察する圖

秀吉公進位殊光迄親族 属 先利通信

同圖 昇官

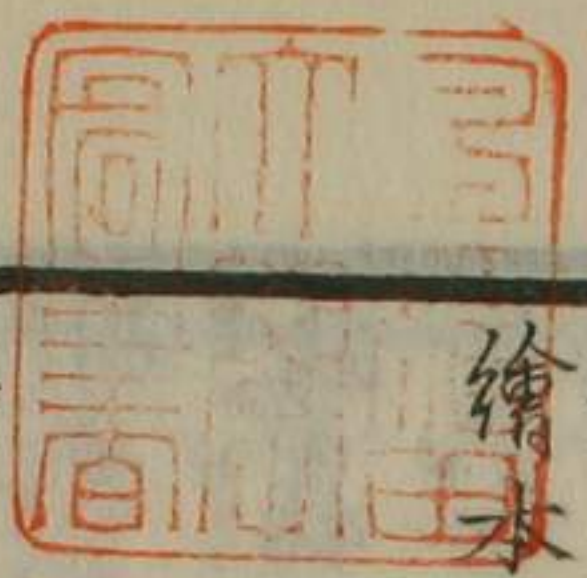
紀列退治先臨國境三城 属 兼田勇功

同圖 三城攻

後母利勇戦の圖

繪本 豊臣熱切記八編卷之三

東京 櫻澤堂山 刪補



羽柴殿制池田勅謀不成 属 惑彘困途

龍の瞋ハ國と補をんがたれおして虎の怒ハ人と損ふ不あり。

備も池田務入奇信輝ハ最初の軍利大不して。方もたあふ

犬山の城と乘取。法取と放火一急の隨不。放地を亂妨一

りり小より。北畠方の法隊將おちひ小倭略て喪遠後分勢

と攸り。再次池田が先陣を折て。務入富が役々。計張志

むく。齧齧一々。入道大不怒るといども。是をいけん

とも。為形おく。驅馬をもて大坂へ注伸不途ひりりやう。這

遭依雄の加勢として。隣國の法將大不加勢一。小牧が



原まで出陣あり。尾濃をもつて並吞せんとす。蚤く津加勢  
 然るべしと。甚雪の如く告来る不ぞ。大坂城も羽柴殿  
 頼て懐彼らとつる事也へ。尾濃勢江の自方へ更あり。五畿  
 中國の法將へも。廻文をもて徇知され。軍儀の部分ハ尾別  
 におひて定めらるべし。漸く彼地へ出軍せむ。謀合さ  
 是その準備頻あり。其所へ池田家よりの注伸組  
 馬急を教して来り。秀右些も動し。玉をば。まづ先  
 進の隊と揮発す。時天正十二年三月廿一日の己の上刻。  
 羽柴冬強秀右大坂城を雷発せし。其勢如合十二万餘  
 騎。巍々然として大垣の城不著。遠地におひて勢調ふ  
 一。茶後の陣隊七番不部伍し。同月廿七日不犬山の城不著

陣あり。直不徳軍を率従へ。樂田羽忠辺を以行し。青塚本  
 陣と居ら。戸田浅野富田不令して。僅不兵士と推出させ。  
 款の強臆と窺せら。不勢州勢ハ恐怖と懐き。動揺記てぞ  
 着え不々。然もこそあん不。信雄が勢ハ。四万餘人不充  
 ざるのそ。此國彼國の集勢也。奈不隊発も不さ。是は秀  
 右頼て謀役けし。方便をもつて。廿所布と款地へ推出し。  
 陣勢を張らせ。這際不人杖と懸まし。構と深ふし。土境を  
 繞ら。二匝構を構へさせ。本陣の隊伍と固ふ不。外構  
 不ハ日根野兄弟。小松守不ハ丹羽長秀。岩崎山不ハ稲柴  
 父子。内窪山不ハ金夷峰。青塚不ハ表山。名十二万の大  
 軍をもて。山谷林野不疎。箒と布る。如く。漫々然と充滿し



羽軍の  
陣あは  
せむ

り。然るに池田勝入斎ハ先日羽軍の一戦不聲ある喪武藏  
守ら。彼輩あしつるのこころをいふ。大山の段においても十分  
敵不欺むるを。最朽憾しく思在り。万望その耻  
と雪ぐんと。一個の計を工夫せよ。信之あはび不老臣  
侖と。陣機一つも其准儀を十分不調せ。這軍とよそく  
大将へ告て。許合を奉明。出戦せむやと。四月朔日戌する刻  
既。本陣へ参候せり。秀吉即時不対面あつて。底子不や  
と向せむ。池田入道声と密潜。老丈敵の拳止と察る  
不。勢尾近國の徳軍勢。食這國不克満して。本城あり。つら  
長崎へ。定で空虚あんぬべ。這國を謀て。用道より。勢別  
へ。発向し。徳不と放火し。軍威を視し。不意不記りて。長

崎と乘取り。名糧の途を断裁て。前後より。攻居なべ。い  
あり。加勢あり。とても。左右を拒抗不憚りて。放止せんこと  
必定ありんと。必理をもつて。速らむ。秀吉既と傾り  
て。熟くと。聆終り。いさ。且下の籌るところ。最く奇妙な  
りと。いども。遠道加勢の大將ハ。無比絶倫の名將不して。忠  
勇の徳士も亦。斯當國へ出陣せむ。本城の防備不  
くんばあむ。盟不名を進め。自軍の過災これより。記  
り。兵士と勞む。陣不して。忍らく。大切成が。人終り  
思慮と。繞らさ。明察不。思儀の命と。入道推返して。  
其神慮も。然ること。北条。上。松籠虎の如く。後甲  
の地と。専其方の拒抗不。惱て。餘不を顧る



の服いんまはあらまど。這期このごと命まさば悔あらんら。是非ぜひ不許きん令まと  
 奉ほうと一いつと。原來げんらい池田いけだ務入むぢり齋さい。老將らうじやうあまどもの性あま。火ひのごと  
 く強勇きやうゆう短僻たんへきありらるゆゑ。自己おのれと是ぜとして秀ひで右みぎが。全ぜん  
 陣ぢんの裾すそと耳みみも容いをせむ。頗い不ま勅しやくり稟りやうさうく不まを。然さバ時とき  
 合あの量りやうを考かんがへ。告つ号ごう令れいまべ一いつと命ませらるゆへ。勝入せうぢり齋さいも  
 違背いまい一いつぐさく。我陣わがぢん中ちゆうへ返來かへきて。胸むねと焙ひつ。兩三日りやうさんみち我  
 まつといふども。まんの告令さきづもなうり一いつちど子こ。佐輝さかまを  
 まを氣きと焦燥しやうそう慕まび本陣ほんぢんへ行いくんとまら。响こた篠本しののぎ。柏井かしら  
 の卿士けいしある。村瀨むらせ佐さ左さも来きつ。喪川むつがわ権けん左さもつといふも。池  
 田いけだが陣ぢんへ潜ひそみ来きり。所ところ自方おのれまべき部おも不まく。密ひそく計儀けいぎを  
 言こと容ゆるり。开ひらも這この條の本ぎ柏井かしらといふへ。長崎ながさきへ潜行ひそ通路つうろ

不まして款將くわんじやう謀まて喪川むつがわ村瀨むらせ不ま密ひそと謀ま一いつ池田いけだ父子ふしと欺あざむり  
 んと今いま這陣このぢん中ちゆうへ来きら一いつちを。勝入せうぢり齋さいへ計略けいりやくも秋毫あきご  
 知らず。悦よろこ繞びいで慕まび本陣ほんぢんへ参候まゐり。村瀨むらせ喪川むつがわが自方おのれ  
 一いつつまバ。突つ不ま謀計まうけい成な就じゆ一いつり。這上この不まも程ほど線せん一いつ密計ひそけい  
 敵地てきち不ま漏も聆りやうえなバ。後悔こうかいまとも切きあるべく。情なさけおろくバ  
 老丈らうぢやう不ま。這方このの將しやうと命ま属ぞくらと錫しやくるべふ。思おも投ひて云い狀じやう也なり。秀ひで  
 右みぎ素すり。這計この強きやうと。心こゝろ下くだなく懐なつかし。是こゝろも。池田いけだが氣き質しやく  
 短勇たんゆう不まして。強きやうてこれと止とりなバ。怒いらと癸す一いつ七しち佐さ雄お方かたへ  
 返かへ忠ちゆうもややと。もんらと。此こゝろ彼かを穢せうて許ゆる容ゆるやと。異い論ろんと  
 と教諭けうゆと示し一いつ。堀秀政ほりひでまさと檢使けんし不ま副そらと。癸す是こゝろ也なり。異い論ろんと  
 命まむる不まぞ。務入むぢり齋さい大だい不ま悦よろこび。然さくバ直般ちか癸す軍ぐんヤんと。別べつ



辞を報て帰陣しつらる。秀右様も覺初なくおぼさき。此  
 三好孫七郎と當副らに後陣の要す。遠後但馬守  
 長谷川俊五郎を加へ玉へ。其勢四万不條ゆら小ぞ。池田  
 信輝ま先く。鏡表し。當天天正十二年四月六日。子の  
 刻過んとしつらる。と得しりと。樂田の陣とあ発しり。その  
 先陣ハ池田勝入斎同記守信之同丹後守輝重一万五  
 千有餘人。二陣ハ喪武藏守三子五百有餘人。諸三陣小ハ  
 堀久右衛門五子餘人。四陣ハ長谷川俊五郎三子餘人。五陣  
 ハ大将三好孫七郎秀次一万餘騎。後陣ハ遠後但馬守三子  
 五百餘人と率し。都合まき。四万餘騎。聊くとし。困  
 道を發し。翌七日の早辰小へ發くも。篠木。柏井の御不愈

りぬ。時小敵の情名の輩。這潛行と快と。視徹小牧の陣へ走  
 返り。言状しつらる。小ぞ。大将大不欣悦せし。是れ能  
 池田が御中と。荒不照て。親徹しつらる。篠木。柏井の御民  
 と。荷擔計。勾引しつらる。と。諸入斎。あさくも。乘て。困道よ  
 り。推寄来るハ。池田脩が。身命実不且。夕小あり。先や埋伏  
 の準備せし。嚴不指揮と傳へ玉ひぬ。  
 池田勢。臨岩。傍視鳥凶兆。屬。大志。調和。  
 格物論。不載る。鬼在ハ。鳴て。凶咎と報るとし。然をとり  
 池田勝入斎。佐輝ハ。凜然と。奮發し。つらる。九日の發展  
 子ハ。尾刈。岩崎。不着。つらる。些。猶。豫。あ。と。そ。十。重。壯。重  
 不捕圍む。故將丹後治部方。弟。つ。氏。時。同。次。部。助。氏。範。つ。づ。り。不





池田勝  
入斎羽柴の  
諸勢を導く  
閑道より発して  
長嶋と麓をん  
とん



五百の小勢ふまども敵の圍むを突ともせむ。鞍を合せて  
 虎口を固め。只一戦不逃散さんと。勇氣壯茂不倭蕙より池  
 田の先陣元相軍左束の荒尾四郎右束の一千餘人面門の  
 関風へ暮地不推進撃破らんと。樓薨より。城名敵を進  
 させトと。炮矢を惜まむ。列發まること。電雷を帶ぐる電  
 雨の像く。息をも次せむ。拒抗といども。宛も怒潮を交也  
 る不奔。元相荒尾が勢を扶りて。紀伊守信之正料不  
 馬を進ませ。長戦亦振。自方の矢を呼懸す。鞭不鞞不面  
 と掩ひ。矢銃を避て。堞不執。飄翻と。七八騎城中不跳  
 入り。其まやと。元相馬騁離。跳樓の言樹を截るが如  
 く。冠なく。城中不踊。投自方を。杖て。亂殺せんと。屯。响不城將

丹羽氏時攀來る故と。柵落くと。八誘まで。即殺せしめ。瞬  
 もせむ。元相不突て。薨るや。半左束の。能鉄擽去。斬結ぶ。され  
 どの。武術熟練と。治部左束の。奮然として。怒氣烈しく。  
 陰方殊不猛り。是べ了得の。元相合調りぬ。既不危ふく。視  
 えぐるところへ。荒尾四郎右束門も。繼ひて。棄投。元相を右  
 方不愛と。氏時が。左方より。擣て。薨り。烈火と。苦しめ。激  
 水と。樓犯り。不ぞ。次帝左束の。身并。疲勞不堪。む。おが  
 も。半左束つと。只一棚と。突發。陰尖。透て。草摺の。隙際不突。込  
 股不ハ。當ら。徒。陰の。糸不。繋り。踰ふ。ま。元相。素速く。丹  
 羽が。陰。鉄。千段。巻。より。吹。杭。こ。あ。る。荒尾が。陰の。霹靂。車  
 丹羽が。癸。を。膳。除く。棚。徹。さ。是。て。む。こ。も。堪。ら。ば。馬。上



り落るとに相分。壓へる首とぞ到りり。面門の大將形  
ありまらむ。拒抗ぐんとする城名はあく。込投進名不逃記  
らまて。天脚地既右領尤倒。散く不成て逃矢りま。池  
田の總勢喚呼で。亂入するること。魔風の像く。これ子因て背  
門の城將丹羽治部卿も覺悟と決。在虎憤の揮劔ふし。  
牧野新九郎土肥七命右衛門つぐとめ不殿ま。さまども  
土肥ハ氏範不。傷あふぐ。樓合布らま。次命助不撃ま  
し。死不むらまで勇と滅さむ。名とをそんぶる氏範ぞと。  
感ぜぬ輩ハあうり。池田父子ハ出陣の隊首不岩崎  
の城と攻陥。先日の耻と雪ぎつるよと。まこ。ハ鬱怒  
と散。這一城と攻取ら。要時法軍と懸せん。種

と突ふて休息を。二陣不後き。黄道後大將三好秀次ま  
でも。先陣の勝軍と大不敵。旗推樹て倦く。然と休息あ。  
這勢威不棄ものあ。長崎城と奪せんこと。喜寧。と  
悉詰紀各々。繞勇で看えふら。中不池田丹後守ハ。迎來  
將首の列不加たり。自勢と率。一段雄。山際ある  
田の畔。林札と立させ。標營載て在。怪。む  
何國ともあふ。鞍多の鴉鳥考。鱗の類。其声愕風不。叫  
ひ。暮蒼翠く。翔來り。自方の旗の翻る。迎迎と。糸不。鞆  
り。後刀の晃と。些も懼怖をむ。或ハ低く。甲冑と。うむむ  
むり。不。下。或ハ。哭。一。呼。声。く。  
漸次。不。集。て。幾。子。も。算。ら。不。形。なく。池田勢



の中軍小樹らきとる。浮全蝶の杠の既。喪武蔵守が陣前  
る。務の丸の籠杠の既。困然として翅を休め。猶其外も佐  
軍の陣に樹る。短袴當機慄のうら小接り。嗚呼ふ声  
置くと。喧まくりして。忌を。然とも佐將命をべ。務軍  
小忠援を。不吉の兆とハ氣も屬む。徒不聆流走。なり小も  
池田丹後守輝重ハ。万般不熟する勇士由。及這變お小腕と  
目と屬多くの務。忽然として。翻集り。軍威の猛き喧  
屍も怖む。人小別て翔繞るハ。布とく。怪。ふおおる  
あり。大槩考の性。や。陽小して陰の物あり。剣や務  
ハその色。是極陰と掌るの辨。小して。陽と考む。轅  
門と無態小犯む。故の伏兵あるも亦。量らむと。前後

小隙なく心で紙り。彼率小までも甲冑の。結門固ふ小んせ  
させ。嚴然として。勅へら。方僅まて。群翔あ。つ。考鳥  
ハ。異音同。小啞。喚くと。叫て四方へ。翻去。り。這兆ハ是  
喪池田。主従共小數と。及。長久之の。大戦場小。毀頻  
つる天岩とこそ。識らむと。ま

喪武蔵守長一池田勝入齋。同紀。伴守。元相与三席  
河合又左。秋田。嘉。来。竹村小平太。あ。んどの  
勇士。金長。久。小。して。戦死せ。ハ。海。して。紀。さ  
む。是。怒。多。き。禪。亦。ま。は。あり

恣てま。羽柴。泰。祇。秀。右。ハ。小。牧。山。對。陣。の。隙。際。と。も。て。備  
生氏。卿。小。五。子。の。勢。と。率。ひ。さ。せて。澁。加。賀。井。の。城。を。攻。さ



一柳直盛と去て。同國竹が叟の城小向せ。これ水攻不  
 せさせらる。謀略海をべき道なるを。即地小二城と攻  
 陥し。勢別子推出して。頻不款地と畏むこと。止富な  
 らび不加勢の徳軍と服さしめん謀計あり。それたりり  
 うん石川が秀右小急と據て。去むく内通せしより。  
 時熟しぬと懐獲させ。浅野長政が一族ある。八郎右衛門  
 長重と招させ。お貌もつとも秀右小似たり。大將の  
 武具と賜り。長重とよて秀右と号らせ。有無の一戦不  
 遠むたり。不遂小北富とお放り。猛憤するどく逐撃さ  
 して。壘小せん勢威あり。大將秀右國と察量て。還  
 螺あし。しら佐軍と收め。是非と論せ。還せらる。不遂。加

及福嶋峰須賀倭断と一つと。大將の命不背き。かく  
 馬と返して。本陣小入登る。清和不出。伺存。今日  
 自分十分。勝利と得つ。は。國と外さむ。進で撃べき軍不  
 る。不。所從と背。不忠。無事。不款。と還る。最。朽。憾  
 存。不。微。時。延。忍。を。といふ。と。も。敵。の。將。率。歩。並。糸。を。て。隣  
 地と整を。隠へ。あり。不。急。ぎ。逐。撃。つ。ら。ま。ら。ば。長。崎。の。城。へ  
 不。も。さ。さ。り。あり。隣國まで。も。攻。均。ら。ら。ん。こと。遠。响。あり。く  
 快。濟。奮。発。去。り。る。べし。と。只。願。不。勅。め。ま。の。さ。る。不。也。秀。右  
 微笑。玉。ひ。各。脩。が。勅。め。も。不。ま。と。ころ。其。理。なき。不。も。あら  
 され。も。是。全。勝。の。理。不。あり。む。其。不。謂。い。う。んと。是。を。推。不  
 今日。止。富。と。と。り。隣國。加。勢。の。佐。將。達。一。遭。致。去。り。つ。る



こと。主將の計謀疎あるもあらず。亦使率侍の戦力を  
 竭さざるもあらず。偏不石川が陣隊の亂起するゆゑを  
 一。固て是れなく還き一城。偏逐ふして撃もせば窮氣却  
 て猫と齒鬪在人と怖きぬ吉徳あり。利や加勢の大將ハ  
 よく忠勇の士ともつる。股の如く一肱の如くは。然バ自方  
 大軍ありとも。再戦不利を得ること難し。平信長の霸  
 業と續で。群國の法候と魔呪程其上も南蠻西戎東夷  
 北狄の外國までも。殘隈なく掌極ふ。天子不代て政  
 事と撰り。四海不号合せんとす。是をば。開戦不身と努  
 めんこと。後度逢ふんぬべし。其と切もなき軍にて。自方と  
 頑ふことあるべし。只唯仁義徳澤と厚ふして。徳國の將

士と伏させんこと。際用なき不遠遣軍を出して。依雄侍  
 と對陣せしこと。渠侍と滅亡させんとす。ハあらず。只秀吉  
 が武威を示して。後來の切と補せんがためあり。既今今日  
 戈と交て渠侍と放止せさせれば。不武威ハたや頑然と  
 り。仁義徳化と施して。困敵と無事不還ぞらむるも。亦不察  
 意の料理とて。浩る恩沢不感せしめ。帰後させんを遠謀  
 不且バ遠くぬうちみりあらず。魔うん。これを見聞しつる  
 徳候ハ。風不随ふ草の如く多くハ干戈と交へむして。降参  
 せんこと。容易くせん。其時を得て一天四海と。幸裡不せん  
 緯疑あるべし。汝侍這理とよく辨得努く吾意不そむく  
 幸あるべし。と諭させし。福徳加後と叙として。聚合



個々意く主君の明智大軍を傾心して感佩しり。諸亦  
 北畠信雄へ勝川倅不懋まされ怖畏も小牧山不隊也と  
 立て踏止り上り勢の動靜を縦看つ横看つ窺ひり。隣  
 國所加勢の個々へ尾張三河の界ある。鳴海の御不陣を結  
 む。智勇の佐士を集ませむ。軍隊専らあるところえ。  
 秀吉の使者富田平太来り。津田隼人助こまの従来信雄の臣家あり  
 鳴海不來り大將不竭。使説をもつ。言状をく。遠遣  
 勢尾の地不出軍して心あり。む陣楯不逆ひまわらむ。へ  
 北畠殿所頼なく。羽柴秀吉を亡さんとま。此不より  
 罷ことと得む。對陣張武セーのそ不。秀吉素より信長  
 公の恩に博大不被りぬ。む。剛才あふ。不信用公と。滅

落せんなど存し。もより。む。剣や所加勢不おひ。とや。秀吉  
 考て意趣あり。然るに大將を厚ふ。信長公の奮好を  
 棄玉た。北畠殿と所助力あり。信長を全ふ。む。秀  
 吉深く感服せし。己后憤恨を遺さむ。む。羽柴家むこ  
 一も疎不存せむ。専和を乞ところあり。と。信長と竭して  
 述り。子。寛勇大度。の良將を。速地不。こ。む。許諾し  
 む。ひ。兩使不。錫品など。説さ。和を。獨へ。帰さ。む。其上  
 不もと。情名をもつ。故地を。精。窺。秀吉。実意の  
 熟和を察して。二軍とも不帰させむ。ひ。ね。備。亦。羽柴。秀吉。ハ  
 使者の帰ると待せむ。む。程。富田。津田。の。兩人。立。帰  
 て。言状。一。り。む。然。速地。不。還軍。ま。べ。と。淺野。孫正。宮。山

豊臣評伝 續卷之三

五





豊臣記八編卷之三



豊臣記八編卷之三



右近福多伴孫守小命ぞくも。楽田の陣と獲らしめ。左右の内意と保さきて。六月廿一日の曉天法軍と領して帰路しめひ。料理べき者ありとて。累朝在京し玉ひらり。斯て内大臣信雄小。法方の勅諭と聆合せ小牧の陣と掩拂て。長崎の城小帰らせり。が。浅野彈正斯と聆より。富田平右衛門。津田隼人と長崎小遣たし。和睦と稟投しり。小柔弱怯懦の信雄をまば。這遭の戦威小身怖して。いりまべしと。惻惑の會時をまば。澁川一雅小これと保し。勅命とくりて。堅く和平の盟とたさんと。滝川且達と昇京をさしめ。熟和の事と奏しつ。も。天威を乞て。解榮を登へ。同年十月廿二日の天と擡て。勢及矢田の河原小出馬し。信雄

秀吉對面あり。和を斡監と固ふして。秀吉従来破取し。佐城をもつ。還さしめ。叛の如く。勢尾二國小主とくしめ。君家小存し。教ひり。信雄主従をとりて。安途し。秀吉の信義と感ず。色り。恚て。冬。孫秀吉ハ。這遭。熱田の法將と賞與し。殘る法なく。改事を。行ひ。大坂の城小還ら。色玉ふ。強小日本。の武棟梁とい。たねと。威風。あり。色玉

秀吉進位條光近親族 屬 毛利通信

狼煙圖を破りて。草木悉く。蒼と。矢ひ。鯨膏。遠小震ふ。麥粟黄と。熟せ。ざ。ば。百氏。法路小。警。走して。宅を。横小。衣と。逆小。妻。娶と。呼。敵。情。く。と。悲。哀。父母と。存。ゆる。跟



武光を専らするの如く。速地不和睦を料理。近國遠邦あらじ  
 り。静謐の天を仰ぎ。貴姓を卑おし奉べし。秋菘の声道路  
 小亮より。今上の帝を奉む。これと歡感まじく。秀吉の  
 切勞を賞せしむるべき詔あり。天正十二年冬十一月廿二日。推  
 大納言不任。後三位不叙。一むひぬ。天子まじく。新美を  
 不。雅久。羽柴と誅むべき。東國の徳將ハ祝縁を結び。莖盟成  
 堅めて好を厚う。近國ハいふもささくあり。遠國の徳家ま  
 ども。招うざる不。服従する軍勢。くは。中も藝。忍の毛利  
 家ハ。武威。中國。西海。不。冠。より。去。ゆる。天正十年の。復。言  
 松城の對陣より。京都の大變あり。不。周。て。遂。不。和睦。と

個へら。其より。己。來。信。義。を。缺。む。好。と。深。ふ。あり。り。り。と  
 ころ。不。天正十二年の。歳。も。莫。て。明。且。バ。十三年の。春。の。初。小  
 早川隆宗。吉川。經。信。と。わ。ハ。父。元。春。の。苗。代。と。して。大。坂。へ  
 登。城。あり。任。官。昇。進。あり。び。不。新。年。の。賀。を。祈。ふ。秀。吉。が  
 どんと。波。悦。あり。石。田。不。西。不。命。せ。り。且。山。海。の。滋味。と。登  
 さ。ま。て。饗。應。する。こと。大。方。あり。む。响。不。秀。吉。隆。宗。經。信。不  
 對。面。あり。端。然。と。して。宣。さ。く。乃。士。身。不。屑。あり。と。い。ふ  
 とも。信。長。薨。去。し。五。ふ。后。好。智。柴。田。が。亂。を。鎮。治。し。その。外  
 徳。不。の。凶。徒。と。誅。破。し。帝。初。と。守。護。し。と。て。ま。つ。り。聊。徳  
 侯。不。儀。監。せ。んと。欲。する。ところ。近。來。漸。く。隣。國。の。徳。家。王  
 命。不。屋。し。順。ふ。と。い。ふ。も。邊。土。遠。邦。の。野。族。不。お。ひ。て。ハ。君



命と軽んじ背くこと多し。就中紀昃根来の衆徒一揆  
 最も統玄をたひがらふ。破戒して我慢暴虐。天小怨  
 せぬ。奉勅のそあり。まつと土佐の國の長考我部元親。飽ま  
 で四國小横行して。虚と窺を。中國西海或ハ畿内の王境  
 までも。逆吞おさんむ。不存願。其罪驗く。輕う。後小  
 是小よつて。迫日小。まづ紀昃の逆徒と。退却。然して。后小  
 四國小渡海。元親殊伐おさんむ。欲を。其响こそ。ハ只願小。  
 毛利三家の助名を乞せん。復及も。恃容と。何と卑して。謂  
 出五人。隆宗仔細小。奉听土佐所征伐の時。あり。亦報小。關  
 ら。速時小。癸軍つら。ま。孫州境小。推涉り。孤吟の款を。東  
 西より。攻磨け。もふ。ま。べ。と。最。統。ま。く。保。領。せ。く。ふ。

秀吉大に感悦あり。程万報の豫合ありて。修珍など種く。錫  
 り。列辭を報して。帰させ。今中國小。雙なき。智勇絶倫の  
 毛利家を。斯の如く。帰服を。其條の。獨角小。おひく  
 おや。孰何。羽柴家を。唯。お。さ。る。べき。金大坂小。出仕せん。と  
 既。驗小。秀吉の。武威。徳光。廣大。ある。こと。統と。や。謂。ち。ん。風  
 と。や。謂。ち。ん。天小。膽。仰。とき。ハ。毒。雲。池。風。も。止。む。べ。く。地。小。踊  
 洞。とき。ハ。魁。魁。竊。も。影。を。潜。む。這。猛。勢。小。天。下。大。半。太。平  
 と。遙。ち。ん。声。劫。師。ハ。さ。く。あり。巷。鄙。ま。で。も。酒。と。酌。で。飲。宴  
 一。統。と。擣。て。鼓。腹。お。さ。し。禁。中。小。も。這。奏。祝。あ。ら。ふ。主。上。も。つ  
 とも。歡。感。ま。く。勅。宣。あ。つ。て。同。年。三。月。内。大。臣。小。任。下。正  
 二位小。叙。一。五。加。之。所。一。族。多。く。官。小。進。ま。せ。ら。る。ま。づ。所



舍才美膳守秀長ハ智勇兼備の良將小して。秀吉公。い  
 まう。及右節うり。响響の如く隨身して。其切博  
 大ありり。是ハ大和紀伊兩國を賜り。郡山不在。撥して大納  
 言小任。從三位小叙。一。五。ふ。  
和歌山もと備前鹿野の所領ありしが去  
 天正十二年の冬病死す。其子及右節  
 定次家督お継ありり。秀吉快より備前家の忠切を賞せり。禁中不審軍一  
 及右節定次と從四位侍從守小叙せり。是三万石と賜へり。是て伊賀の玉不接され。五ふ  
 とあてまつり。また。のち。ひでつぐ  
 儲又三好孫七郎秀次と。種て俗子小せり。是。り。ゆえ。  
 姓を羽柴小葺めさせ。近江國を賜りて。権中納言小任。ト。  
 從三位小叙せり。是。り。  
開。近江の國の叙代。依。本。の領地。より。一。分。足  
 信長の。の。め。攻。國。ま。一。つ。と。依。本。義。彌。等。実。子。一。て。秀。吉。これ。と。去。む。く。い。こ。う。す。そ  
 子。も。つ。く。仁。育。せ。り。江。北。の。地。三。万。石。分。与。へ。依。本。の。家。名。と。お。継。せ。させ。右。名。兼。督  
 義。々。と。号。す。れ。其。小。次。で。親。族。家。居。あ。ら。う。ら。め。加。官。昇。進。あ。り。り  
 せ。う。と。を  
 る小。ぞ。羽柴家の威徳。統の如く。照ら。し。珠の像。く。小。号。と

ま。り。膳。領。地。横。間。は。是。ハ。納。粟。の。多。果。二。百。万。石。其。外。集。る。珍。宝  
 ハ。棍。強。の。阜。洞。階。の。根。火。斎。の。宝。珠。難。の。珍。楨。丹。明。礫。金。美。銀  
 撲。紫。貝。流。黄。絲。碧。素。王。海。より。採。く。これ。と。修。へ。山。より。採。く  
 こと。と。積。で。崑崙。と。も。絨。一。ん。む。べ。く。崦嵫。も。号。と。ま。ら。小。臣。と。せ。  
 然。ど。も。那。般。小。会。稟。の。中。成。貨。を。徒。小。修。安。ハ。世。上。の。緋。袴。も  
 い。り。な。り。施。與。さん。ふ。ハ。如。べ。う。と。と。黄金。五。子。枚。白。銀。三  
 百。兩。を。庫。より。出。さ。し。これ。まで。軍。車。不。惱。され。く。器。高。倍  
 計。不。困。苦。セ。一。類。軍。を。移。く。招。集。ら。し。聖。樂。の。總。門。の。南  
 今。の。日。念。し。小。お。ひ。す。正。且。より。暮。天。まで。普。く。施。与。し。五。ひ。乃。れ。バ。  
 児童。整。啞。ふ。い。く。ま。で。秀。吉。公。の。仁。慈。德。化。と。教。誥。こ。と。罵  
 せ。り。り。り。り。

豊臣記八編卷之三

十六



紀州退治先臨國境三城 屬 黒田勇切

轉法輪車不軌ふらんば。四海不轉輪まるること能はむ。國不主  
 領なきと死ハ。政事全きこと能はむ。茲不紀州の境中ハ。血  
 未定まる國主あふして。熊野宮野の衆徒あんど。山林  
 田塾と横領して。恣不我意と放棄し。邦武士一揆の  
 溢民と荷槍來。貪亂邪慾と競ふが中不も。根來寺最も強  
 ふして。暴惡邪行不天威と怒をむ。肉翅生むるものあふ。大  
 魔王とも成つべふ。無慚非道の拳止のそ。學佛子とハ見え  
 ざりりり。這不先年河別霧坂の城不將凝守する。務  
 川法印密地ハ。佐久間兄弟と伴ふ。徳不不隙流ふ  
 なるが。原來智謀勝とよむ。信と懐多あり。宮野熊野

那智等の衆徒ハ。天下不敵する者ありて。潛不秀若と怨む  
 ことあり。憎て數百の惡僧輩。猛勇不して武備足り。先ヤ  
 若び根來寺不身と擾んと。途と急ぐ不不意も。杖鑿山倅不  
 値偶々まば。まましく。鏡森一渠倅と偕不。紀州根來不來  
 りつも。板元房俊妙。岩室房親。澁大瀧院一真。あどと荷槍  
 來らる不。素より粉川が謀略武勇。抜群あら不。服しるの  
 也。金款悦して。清迎へ。軍師と稱して。評定あし。宮野熊  
 野那智山あど。謀合せし。合群せし。縦令僧徒の勢  
 の不不。伽蘭殿不安居をとも。一揆と集て。紀州一圍と員  
 不。是バ。十方不も勝る。款あり也。容易退治をべふハ。見え  
 是各く。關鋒の準備不。造づり。備亦不。羽柴長守秀長ハ。這



遭大納言不任ぢうま。大和紀伊の兩國を領して和列へ平  
 和ありとりども。紀列へ浩る悪僧輩。佐山不在。暴  
 行一りまば。一應こまを省めんと。宮野熊野根来等へ使  
 者をもつて遣えさせ。何事にもあは。従来國守の人等令  
 不。随ふべき旨徇らまば。宮野熊野那智三山へ御取  
 とふさざるのそあり。根来寺の衆徒におひまひ。粉  
 川佐久間の技師あり。使者を大に罵り。擧ぐ  
 不。返返一。楯と刷篋と磨き。軍備嚴あり。秀吉公  
 これと聆召。然バ根来の悪僧輩より。還給をべいと  
 命出され。中村式部少輔。一氏を導猪士とあ  
 一氏先年根来雜賀のあまんと。衆徒をさてんがん。諸先陣の大將へ。大和  
 岩和田不在。中村とめて案内者とま。

大納言秀長あり。堀細川蒲生。長谷川。宇山。筒井。併二万五千  
 有餘。隊伍と二小部行。三日さき不發向させ。總大將  
 不。内府秀吉。玉田。蜂須賀。福崎。加藤。藤尾。あんど。と從へ  
 て。其勢二万五千餘。同年三月十八日。平山城と奮發一  
 むひ。路次を緩くと。出列あふ。年の螺吹。利根。不。衆徒。堀の  
 津。不。是。む。ひ。ぬ。それと聆より。根来寺へ。領て防禦の準備  
 あり。千石。堀の城。濱の城。積。岩。寺の二城へ。それ。加勢  
 の名を遣え。一。鼎。豆とまつ。拒抗。べき。粉。川。密。地。が。軍  
 略。ま。ど。く。嚴。一。く。三。城。不。要。崖。ふ。さ。一。め。根。来。の。本。寺。へ  
 別。て。機。密。を。謀。合。せ。佐。久。向。兄。弟。松。鷲。山。と。補。翼。と。一。人。隙  
 處。も。あ。ら。せ。む。隊。列。より。時。不。天。正。十。三。年。三。月。廿。日。那。紫。内



大臣秀吉公。紀州境へ部名ある。まづ後谷寺の枝寨へハ。細川名部太補父子。蒲生忠三郎侍と馳向せ。千石堀の枝寨へハ。近江中納言秀次ハ。筒井伴賀守。長谷川俊五郎と向せし。濱の城へハ。中川俊兼。赤松也。山右近と蒐らせつ。其外。左衛門督。中村式部少輔。蜂谷出羽守侍と叙して。野の軍勢。これも。と馳向ふの。疑勢を十分小着蒐り。是ハ内府。指。秀吉の密謀。小して。致と。して。根来勢と枝寨。一へ。勾引。倚。不。言。不。根来。不。推進。直地。不。本城。と攻臨さんと。謀。役。一。部軍。あり。ま。つ。と。尾田。長政。駿。須賀。正勝。不。六。子。餘。勢。の。強。名。と。率。せ。根来。と。二。城。の。中。途。不。堅。く。列。位。させ。備。款。名。の。三。城。より。樊。籠。を。遁。きて。本山へ。

逃返る輩あり。滿。さ。は。不。敵。控。んと。攻。臨。と。遮。る。準。儀。せ。させ。斯。の。如。き。分。別。して。后。小。西。行。長。不。命。せ。ら。せ。千。石。堀。の。尤。方。あり。三。級。山。不。攀。海。らせ。晴。号。と。せ。よ。と。指。揮。し。玉。ふ。然。し。根。来。の。攻。方。不。ハ。大。和。大。納。言。秀。長。卿。と。先。陣。と。一。加。藤。福。清。尼。相。平。野。次。弟。不。勢。と。操。出。して。総。大。將。秀。吉。公。後。陣。不。行。く。寛。く。と。徳。方。の。枝。寨。を。條。新。不。祝。流。し。直。不。女。山。根。来。寺。山。と。正。當。不。指。て。押。よ。せ。然。不。ど。不。千。石。堀。の。城。名。ハ。自。大。我。慢。の。慥。悞。名。ハ。ま。は。濱。後。谷。寺。の。三。枝。寨。不。て。逆。不。援。名。と。操。出。し。助。合。ふ。べき。監。約。あり。不。不。を。用。ひ。屯。所。柴。勢。の。推。進。と。致。る。より。も。運。城。中。不。凝。守。し。山。内。三。郎。名。忠。吉。松。後。内。次。津。武。太。弟。

豊臣評八編卷之三

十





豊臣記ノ外巻六三



根来大一新隊五百餘騎少く設て免筒井の隘部不  
 て蒐る時不遠方の大将の近江中納言秀次を弱年  
 是との傑気の勇將頼不采幣お振て其のや坂谷の背路  
 不廻り接破て城不棄投也蒐也や進めと指揮一五人長  
 谷川勢もこれ不續て破竹の如く城谷の後隊と斬んと突  
 蒐る新と着るより浪積岩寺の両城より千石堀と陥させ  
 へ幅ふまふと圓風推開き正蕃地不突發也羽柴勢ハ張  
 嬰不陣と開きてこれ不も標りうも不も當て此場と専途  
 と集散離合の術を以て二方の敵と喫止しり時を  
 宜り是と小西行長三奴山の絶頂不て晴号の太鼓と急調  
 不謹くと櫻鳴セバ瀆の方不ハ中川守山積岩寺と細川

備生敵と合せて總近不黒烟發て接起りも不そ千石堀不蒐  
 りしる秀次卿の清勢ハ偏推不城と取らんと城谷の精隊  
 と斬窮し難なく面門と擊破り城不深投るよと着えり  
 るが早くも法方不火と燒しり中川守山細川備生ハ千石  
 堀の火の發を視るより其や筒井隊の蒐りしる千石堀ハ  
 落城セしを者るまふと心せり喫たり誓て出する城谷と  
 中不單で接起りりみぞ寡勢ありり城谷軍は是ハ設て  
 て亂走也這國と量て堀尤弟門督秀改中村式部少輔一氏  
 蜂屋出羽守頼隆三方より發起還不浪積岩寺の両城伐  
 苦も不なく破りて棄取しり這城く不守將する松平房忠室  
 房大一新大遊院或ハ鈴木石橋平野以津守松山内不と言



猛士ありとくども。據べき城ハ棄取らば自方寡勢あるう  
 至小大軍殺死させし心ハ孫猛不憚るといへども。あど久  
 羽柴の大軍不敵まらるるの終ふべき進退此地不究りしは  
 ハ令期不死地と脱去し一應本寺不弛返す力と勤セ防禦  
 あらんと辛ふとて凍圍と脱が是。根来寺ありて逃性不  
 領て大将秀右公の所従と奉て遠路上下。候設くは意田  
 勢。左方の山不ハ後及又各衆。右方の谷不ハ母利太各衆。路  
 の中央不ハ遠隊の大將軍田長政。三方合せし三子條路。敵  
 と依て路茶と壘斬。隔まきしと突荒る。こまと奔しく後  
 より。峰須賀堂の三子條路。滅と並せし茶後より。壘不せ  
 よしと呼喚記。柳不とし吹不とし。猛勇不敵の悪僧軍も

狂死憤の棒して。遂不戈戟の血場不。法報向地の佛種身と。  
 洒して死まこそ無慙なれ。遠處不して斬提。敵二百二十有  
 條級。活捕およそ八十條人。有るりとぞ

五  
 繪本豊臣熱田記八編卷之三了



